

月球儀

秋山裕美

- 25 半島や花火の夜に身籠りし
- 24 人混みをさかしまにゆく夏祭
- 23 夏ゆふべ手の傷隠す手にも傷
- 22 夕立の匂ひに開く記憶あり
- 21 少年の自転車速し日雷
- 20 どの人の名にも祈りやダリヤ咲く
- 19 時計草風のかたちにかかれけり
- 18 手の中の飛蝗いのちの色かたち
- 17 日盛りや隣の芝を見る角度
- 16 人形の視線を逃れ夏の野へ
- 15 短夜や海の名多き月球儀
- 14 巴里祭に生まれし男料理好き
- 13 夏木立鏡のやうな人に会ふ
- 12 見つめられ大きくなりし春の月
- 11 ジェット機の川なぞりゆく暮の春
- 10 春ひと日庭に仕へて暮にけり
- 9 剪定の缺だんだん大胆に
- 8 隣家の子育つ満天躑躅越し
- 7 リラの花叱られたくて会ひにゆく
- 6 春昼や窓より売られゆくピアノ
- 5 話すたび違ふ結末すみれ草
- 4 熊蜂や見えざる敵をかはしゆく
- 3 ガラス戸を磨けば春の雲走る
- 2 花の雨大事なことは謝れず
- 1 蒲公英や地中に伝ふ空のこと
- 26 天国は人でいつぱい大夕焼
- 27 満洲の馬の話や盆休み
- 28 端居してしみじみ夫の後頭部
- 29 風鈴やあひづちを待つひとりごと
- 30 しばらくは明かりを点けず夏の夕
- 31 となり家に繋がってゆく蜘蛛の糸
- 32 夏の果大きく見せる服を脱ぐ
- 33 コスモスや悲しきときに笑ふ人
- 34 爆弾になりそびれたる檸檬かな
- 35 赤とんぼ人に話せる悩みごと
- 36 分数をひつくり返し天の川
- 37 さびしいか月よ地球のひとり子よ
- 38 ひたすらにシンクを磨く良夜かな
- 39 知らぬ人知人に見えし暮の秋
- 40 星月夜軒下に置く猫の皿
- 41 口笛を吹くとき真顔冬に入る
- 42 立冬や主婦倒立す午後三時
- 43 冬ざるる不安な人のよく喋り
- 44 声の描く同心円やかいつぶり
- 45 ひとりゆくマスクの下に歌ふうた
- 46 短日や機械の機嫌取り損ね
- 47 冬銀河さびしき家にも多し
- 48 古靴に火の回りたる焚火かな
- 49 人日や真夜中に焼くハンバーグ
- 50 家ごとに雨戸の癖や春兆す